

分 析 結 果

平成23年12月9日（金）
みずほ情報総研株式会社
社会経済コンサルティング部

1. 目的

- ・医療機関及び介護施設における花きの活用状況を明らかにすること。
- ・医療機関及び介護施設において感じられている花きの効用を明らかにすること。
- ・医療機関及び介護施設における今後の花きの活用可能性について明らかにすること。

<調査項目>

- 医療機関における患者及びその家族の緊張や不安を和らげるための取り組み
- 施設における花きの設置場所と支出金額
- 施設における花きの管理者及び管理方法
- 施設における花きの効用
- 施設における花きの導入状況及び導入意向

2. 調査対象・方法

- ・日本慢性期医療協会の会員施設951施設を対象として実施した。
- ・会員施設が医療機関であるか介護施設であるかは、会員名簿からは判然としないため、すべての対象者に、医療機関用と介護施設用の調査票を両方送付した。
- ・医療機関と介護施設の両方を有する対象者は2通の調査票を返送し、いずれかひとつの施設である対象者は、あてはまる方の調査票に回答し、返送した。

3. 回収数

回収数は、以下のとおりである。

調査種別	配布数	回収数
医療機関	951	104
介護施設	951	16

■ まとめ

(1) 患者の緊張や不安を和らげるための取り組み

- ・医療機関（病院）では、「スタッフによる挨拶や笑顔の励行」が最も多く、次いで「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」「建物外の花壇・庭園での植物の栽培」となっている。
- ・介護施設では、「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」が最も多く、次いで「スタッフによる挨拶や笑顔の励行」となっている。
- ・いずれの施設においても、「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」「建物外の花壇・庭園での植物の栽培」は、約9割の回答者が効果を感じると答えている。

(2) 花きの活用状況

- ・医療機関（病院）では、花きを活用している施設の月平均支出額は、約3万円である。
- ・医療機関・介護施設のいずれにおいても、得られる効用としては、「季節感が得られるなど生活に潤いがもたらされる」が最も多く、次いで「患者・入所者の家族・職員のストレスや緊張・不安がほぐれる」となっている。

(3) 花きの導入意向

- ・医療機関（病院）では、今後、活用を検討してもよいを答えた回答者は5割強であった。
- ・医療機関（病院）では、活用してもよいという理由は、「患者・入所者のストレスや緊張・不安がほぐれそう」「職員・家族のストレスや緊張・不安がほぐれそう」が最も多かった。
- ・活用する場合の想定支出額は、平均で約1万7千円であった。

(4) 花きのリハビリテーションへの活用状況

- ・療養病棟では、花きを活用したリハビリテーションを行っている回答者は1割強、回復期リハビリテーション病棟では約3割、介護福祉施設では約4割であった。
- ・療養病棟では、花きを活用している回答者の月平均支出額は約1万6千円であり、回復期リハビリテーション病棟では約3万円であった。
- ・花き活用の効用としては、いずれの対象者についても、「収穫物の販売・料理など生活能力の維持」と「共同作業による会話の促進」が上位に上った。

(5) 花きのリハビリテーションへの活用意向

- ・療養病棟では、「活用したい」と答えた回答者は1割強、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は5割強であった。
- ・「活用したい」と答えた回答者は約2割、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は約5割であった。
- ・活用する場合の想定支出額は、療養病棟が約4千円、回復期リハビリテーション病棟が約3万円であった。

(1) 医療機関（病院）

【全対象者】

① 患者の緊張や不安を和らげるための取り組み

- ・「スタッフによる挨拶や笑顔の励行」が最も多く、次いで「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」「建物外の花壇・庭園での植物の栽培」となっている。
- ・取り組みの効果としては、「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」は、約9割の回答者が効果を感じると答えている。
- ・取り組みの効果としては、「建物外の花壇・庭園での植物の栽培」は、約9割の回答者が効果を感じると答えている。

② 花きの活用状況

- ・施設内の設置場所は、「玄関ロビー」が最も多く、次いで「待合室」となっている。
- ・施設外の設置場所は、「玄関・その周辺」が最も多く、次いで「中庭・庭園」となっている。
- ・管理方法は、施設内外ともに「事務部署にて管理・運営・外部委託」が最も多い。
- ・管理者は、施設内外ともに「事務部署」が最も多い。
- ・得られる効用としては、「季節感が得られるなど生活に潤いがもたらされる」が最も多く、次いで「患者・入所者の家族・職員のストレスや緊張・不安がほぐれる」となっている。
- ・花きを活用している施設の月平均支出額は、約3万円であった。

③ 花きの導入意向

- ・今後、活用を検討してもよいを答えた回答者は5割強であった。
- ・活用してもよいという理由は、「患者・入所者のストレスや緊張・不安がほぐれそう」「職員・家族のストレスや緊張・不安がほぐれそう」が最も多かった。
- ・活用する場合の想定支出額は、平均で約1万7千円であった。
- ・活用したいと思わない施設の理由は、「世話に手間がかかりそう」「費用がかかりそう」「スペースがなく邪魔になりそう」「衛生面が懸念される」が最も多く挙げられた。

【療養病棟】

① 花きのリハビリテーションへの活用状況

- ・花きを活用したリハビリテーションを行っている回答者は1割強であった。
- ・花きを活用したリハビリテーションを行っている対象は、「高齢者」が最も多く、次いで「認知症の高齢者」となった。
- ・実施内容としては、「植物や野菜の栽培・収穫」が最も多く、次いで「植物の水やり」となった。
- ・花きを活用している回答者の月平均支出額は約1万6千円であった。
- ・活用している場所は、「中庭など庭園」が最も多かった。
- ・花き活用の効用としては、「収穫物の販売・料理など生活能力の維持」が最も多く、次いで「共同作業による会話の促進」となった。

② 花きのリハビリテーションへの活用意向

- ・「活用したい」と答えた回答者は1割強、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は5割強であった。
- ・活用してもよい理由としては、「共同作業による会話の促進に効果がありそう」が最も多く、次いで「収穫の楽しみ、将来への期待の維持が期待できる」となった。
- ・活用する場合の想定支出額は、月平均約4千円であった。
- ・活用したいと思わない理由としては、「専門職の確保が難しい」が最も多く、次いで「緑化する場所の確保が難しい」となった。

【回復期リハビリテーション病棟】

① 花きのリハビリテーションへの活用状況

- ・「活用している」と答えた回答者は約3割、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は約5割であった。
- ・花きを活用したリハビリテーションを行っている対象は、「高齢者」が最も多く、次いで「認知症の高齢者」となった。
- ・実施内容としては、「植物の水やり」が最も多く、次いで「植物や野菜の栽培・収穫」「植物の屋内での飾りつけ」となった。
- ・花きを活用している回答者の月平均支出額は約1万1千円であった。
- ・活用している場所は、「屋上」が最も多かった。
- ・花き活用の効用としては、「共同作業による会話の促進」が最も多かった。

② 花きのリハビリテーションへの活用意向

- ・「活用したい」と答えた回答者は約2割、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は約5割であった。
- ・活用してもよい理由としては、「収穫の楽しみ、将来への期待の維持が期待できる」が最も多く、次いで「共同作業による会話の促進に効果がありそう」となった。
- ・活用する場合の想定支出額は、月平均約3万円であった。
- ・活用したいと思わない理由としては、「緑化する場所の確保が難しい」となった。

(2) 介護施設

① 患者の緊張や不安を和らげるための取り組み

- ・「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」が最も多く、次いで「スタッフによる挨拶や笑顔の励行」となっている。
- ・取り組みの効果としては、「建物内での生花・観葉植物の飾りつけ」は、約9割の回答者が効果を感じると答えている。
- ・取り組みの効果としては、「建物外の花壇・庭園での植物の栽培」は、約9割の回答者が効果を感じると答えている。

② 花きの活用状況

- ・生花・観葉植物を活用している施設の月平均支出額は約9千円である。
- ・施設内の設置場所は、「玄関ロビー」「廊下・休憩室」が最も多い。
- ・施設外の設置場所は、「玄関・その周辺」「中庭・庭園」が最も多い。
- ・管理方法は、施設内は「病棟にて管理・運営、外部委託」が最も多い。
- ・管理方法は、施設外は「事務部署にて管理・運営・外部委託」が最も多い。
- ・管理者は、施設内外ともに「看護職・看護補助職・介護職」が最も多い。
- ・得られる効用としては、「季節感が得られるなど生活に潤いがもたらされる」が最も多く、次いで「患者・入所者の家族・職員のストレスや緊張・不安がほぐれる」となっている。

③ 花きのリハビリテーションへの活用状況

- ・「活用している」と答えた回答者は約4割であった。
- ・花きを活用したリハビリテーションを行っている対象は、「認知症の高齢者」が最も多く、次いで「高齢者」となった。
- ・実施内容は、「植物や野菜の栽培・収穫」が最も多く、次いで「植物の水やり」となった。
- ・花きを活用している回答者の月平均支出額は約3万5千円であった。
- ・活用している場所は、「中庭などの庭園」が最も多かった。
- ・花き活用の効用としては、「収穫の楽しみ、将来への期待の維持が期待できる」が最も多く、次いで「共同作業による会話の促進」。

② 花きのリハビリテーションへの活用意向

- ・「活用したい」と答えた回答者は0%、「検討してもよいと思う」と答えた回答者は約7割であった。
- ・活用してもよい理由としては、「共同作業による会話の促進に効果がありそう」が最も多く、次いで「収穫の楽しみ、将来への期待の維持が期待できる」「身体機能の回復に効果がありそう」となった。
- ・活用する場合の想定支出額は、0円であった。
 - ・活用したいと思わない理由としては、「維持に手間がかかりそう」となった。